

福祉教育体験・講話

6月30日(月)に総合的な学習の時間で、福祉教育の体験・講話を行いました。事前に行った体験活動で感じたことや考えたことからそれぞれが体験・講話を通して、障がい者福祉への理解を深めることを目指して実施しました。



一つ目は、点字体験です。目の不自由な方がコミュニケーションツールの一つとして使う点字の打ち方を学びました。点字があることによって、視覚に頼らず触覚で文字を認識することが可能になるということへの理解を深めていました。しかし、点字を打つとなるとたとえ有効なツールであっても、かなり大変な作業であるということを実感したようです。この体験を通して、身の回りにある点字へ、さらなる関心を向けられるようになりました。



二つ目は、手話体験です。手話は、耳が不自由な方のコミュニケーションツールの一つ

です。イヤーマフを使った体験で、音のない世界を感じているからこそ、手話をしているときの子どもたちの表情は真剣そのものでした。声では伝わらないことを分かった上で、自分の手を使って必死にコミュニケーションを取っていました。「お家の人にも伝えたい!」と感じた人もいたようです。



三つ目は、車いすの方の講話です。車いすバスケット、パラリンピックにも出場したことのある方が話をしてくださいました。車いすバスケットを通して、感じたことや学んだことを伝えてくださいました。さらに、車いすでの生活について、実演を交えて教えてくださいました。頭では分かっていたことでも、実際に当事者の方から話を聞くことで、これからの生活において、車いすの方に対してどのような気配りをしたらよいか具体的に考えた人もいました。

今回の体験・講話は、自分で選んだコースに絞って行いました。今後の総合的な学習の時間で、他のコースの人たちに自分が学んだことを分かりやすく伝えるためにどうすればよいかを考え、発表に向けて進めていきます。